

松戸市街路樹の整備・管理に関するガイドライン（概要版）①

1 本ガイドライン策定の背景・目的

- 市内の街路樹は昭和9年頃の八柱霊園前の植栽に始まり、常盤平団地の造成や各土地区画整理事業等により本数を増やしてきた。
- 令和7年12月現在、約10,300本あり、街路樹がある道路延長は約70kmとなっている。
- 大木が多く「街路樹が立派なまち」として他市から視察に来ることもある。
- 毎春開催されている、常盤平や六実のさくらまつりでは数十万人の人々が訪れている。
- 常盤平さくら通りは「日本の道100選」、常盤平けやき通りは「新・日本街路樹百景」に指定されている。

その一方で



大木が多いこと等による課題が多く、このままでは将来にわたって維持管理を継続できるか不安



街路樹が持つ景観向上、緑陰形成等の機能の発揮、安全性の確保、将来の維持管理コストの低減化を目指し、本ガイドラインを策定

※「松戸市みどりの基本計画（2022年4月）」にガイドライン策定について明記されている。



(出典: 公益財団法人東京都公園協会)



常盤平けやき通り（1960年頃）



六高台さくら通り



常盤平さくら通り



常盤平けやき通り



紙敷さくら通り



小金原あめりかふう通り



小金原いちょう通り

松戸市街路樹の整備・管理に関するガイドライン（概要版）②

2 策定において工夫した点

- わかりやすくなるよう写真を多用。
- 本市で街路樹として植えている各樹種の特徴、管理上の課題等を詳しく説明。
- 読み飽きないように、街路樹に関する豆知識等の「ちょっとブレイク」を所々に掲載



良いところ、課題、今後の方針等について各種写真を交えて説明

①ソメイヨシノ(染井吉野 *P. runus × yedoensis*)

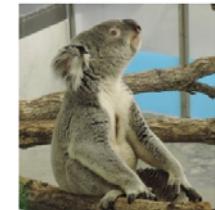
科名属名 大きさ等	バラ科サクラ属 落葉広葉樹 高さ 10~15m程度、幅は 20mを超えることもあります。
樹木の エピソード	サクラの代表的な品種。オオシマザクラとエドヒガンの種間雑種と考えられ、3月下旬から4月上旬に淡紅色の花が葉に先立って咲きます。江戸時代後期に江戸の染井村で誕生し、当初は「吉野桜」として、明治に入ってからは「染井吉野」として全国に広がりました。
優れている ところ等	日当りを好む陽性樹木で、成長が早く、早い段階で樹冠を広げた立派な樹木になります。また、どの木も接ぎ木等で増殖されたクローンであるため、個体差が無く同時期に一斉に花が咲き、華やかな景観をつくります。横に広がった枝葉により、夏には大きな緑陰を形成します。秋には紅葉しますが、一斉に赤くならず、早めに落葉してしまうことが多いです。
植栽・管理 メモ	自然樹形とするのが一番見栄えがしますが、枝が下がりやすく、街路樹としては車両等に当たらないよう、頻繁な手入れが必要になります。また、自然樹形では枯れ枝が発生しやすく、枯れ枝の点検が必要です。サクラ属の中ではてんぐ巣病にかかりやすいとされています。病害虫では、8月以降のモンクロシャチホコに注意が必要です。平成20年頃まで頻発していたアメリカシロヒトリは、近年ほとんど発生しなくなりました。



説明の一例（ソメイヨシノ、全部で19種説明している）

ちょっとブレイク① コアラがあまり動かない理由は？

本市は長年ユーカリを管理してきましたが、葉に害虫が付いたところを見たことはありません。葉には強い香りがあり、生物にとっては有毒な物質が含まれると考えられます。コアラはユーカリの葉を食べますが、この有毒な物質を分解するためには、かなりのエネルギーを使っているという説があります。いつもコアラが寝そうに見えるのは、体内で消化器官が大仕事をしているからかもしれませんね。



ちょっとブレイクの一例

松戸市街路樹の整備・管理に関するガイドライン（概要版）③

3 松戸市の街路樹の課題

- ソメイヨシノ、ケヤキ等の大木が多く枯れ枝の落下や枝折れが頻発し、事故につながることもある。
- 大木は根上りが発生しやすい。
- 大木の安全管理のための維持管理費が増大している。
- 歩道幅員に合っていない箇所がある。
- その土地の土壤状況に合わず、生育不良となっている樹種がある。
- 街路樹としての適性に疑問がある樹種がある。
- 特にサクラ類でキノコ（腐朽菌）により、倒木や枯死に至ることがある。
- あらゆる害虫が発生しており、さらに新たにサクラにとって脅威のクビアカツヤカミキリが入ってくる可能性がでてきた。



歩道幅員に対して太すぎ

低地部で生育が悪いマテバシイ

ひこばえ等で手がかかる樹種

ソメイヨシノに発生したベッコウダケ

クビアカツヤカミキリ
(農林水産省HPより)

4 街路樹の整備について

「並木のまち・まつど」を目指し、市民に親しまれ、美しく、木陰があり、安全で、維持管理費の軽減につながる街路樹整備を行うため、以下を実施する。

- ソメイヨシノは祭り実施の通りは存続とし、それ以外は小ぶりなサクラへの品種変更を検討する。
- ケヤキは歴史的な景観を形成している箇所を除いて、花木等への樹種変更を検討する。
- 植栽環境や歩道幅員に合っていない箇所は、樹種変更を検討する。
- その他、状況に応じて樹種変更、撤去等の対応をする。



整備の優先順位

①桜並木の再生（松戸市総合計画での目標）

- ・ソメイヨシノからの変更する品種を検討・決定し植栽を進める。

②安全面の改善につながるもの

- ・ケヤキ等について樹種変更を検討する。

③美観の向上や管理費の削減につながるもの

- ・生育不良等の課題のある箇所について、大木にならず花が美しい樹種へ変更を検討する。



六実さくら祭りの賑わい



ソメイヨシノからの品種変更検討箇所の例



サクラ品種変更例（ジンダイアイケボノ）



サクラ品種変更例（ヨウコウ）



樹種変更検討の例（ニセアカシア）



樹種変更の例（マグノリアワダスマモリー）



樹種変更の例（サルスベリ）



樹種変更の例（常緑ヤマボウシ）

松戸市街路樹の整備・管理に関するガイドライン（概要版）⑤

5 街路樹の維持管理について

- せん定作業は基本的にこれまでどおりに実施。
- ケヤキやソメイヨシノは樹高低減作業等により、大きくなりすぎない維持管理を目指す。
- 植栽初期のせん定作業や支柱の撤去を実施する。
- 小さい木の緑陰を増やすため、せん定方法を工夫する。
- 樹木診断、枯れ枝点検は強化を目指す。
- 現状チップ化しているせん定枝や、落ち葉についてさらなる活用方法の調査研究を行う。



ケヤキの樹高低減作業



パイプが食い込んだ街路樹。支柱の放置により同様になることがある。



樹木診断の様子



並木通り名称板



前庭のイメージ

6 市民と街路樹

- 並木通り名称板等で街路樹への親しみの醸成を図る。
- 「前庭プロジェクト」による市民との協力体制を検討。
- クラウドファンディングや、街路樹オーナー制度等資金面の民間からの協力について調査研究を行う。

7 おわりに

今後、街路樹の整備・管理業務を誰が担当しても継続できるよう、本ガイドラインを活用する。



「安全」、「美観と緑陰」、「維持管理費の軽減」を3本柱に、市民から永く愛される街路樹となることを目指す。



常盤平さくらまつりの賑わい